

令和4年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第4回第一分科会
開催日時	令和4年8月10日(水) 午前10時から12時まで
開催場所	葛飾区役所 新館7階701、702会議室
出席者	【委員8人】 (出席) 大石会長、大山委員、鈴木委員、菅原委員、大友委員、 上村委員、千田委員 (オンライン出席) 長谷川委員 【区側8人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員3人) 高齢者支援課(高齢者支援課長、高齢者支援担当係長) 産業経済課(産業経済課長、経済企画係長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 答申内容のまとめ

(1) 雇用・就業マッチング支援事業

(意見整理表の内容確認後、議論)

A 委員：高齢者の就労状況の改善は急務であるが、所管課の高齢者対策への問題意識が低いと思うので、積極的に取り組むべきである。また、現場にも足を運び、委託事業者が従事している様子を確認するとともに、業者へのチェック体制を強化してほしい。また、区の広報も足りないと感じている。現状、どの程度現場に出ているのか教えてほしい。最後に確認となるが、委託による事業運営を行う上で、区も包括的な責任があるという認識でよいか。

産業経済課：その認識のとおりである。また、セミナーなどのイベントについては、その様子を伺いに現場に出ている。

A 委員：イベントは年に何回行っているのか。

産業経済課：セミナーを含めると月に何回も実施している。

A 委員：区民に対するサービス向上を意識し、事業に取り組んでほしい。

B 委員：当該事業はいつから開始をしているのか。開始時から委託であったのか。

産業経済課：平成 18 年度から事業を開始しており、委託開始は平成 19 年度となる。

A 委員：所管課は、委託業者に事業の全てを任せるのではなく、社会状況を注視しながら、問題意識を持って事業に取り組んでいただきたいと考えている。

C 委員：委託が悪いとは思わないが、委託の運営状況について所管課もより一層確認することが必要だと思う。

D 委員：高齢者の就業支援をすることは賛成だが、若い人は民間サービスを利用すると思われるため、当該事業の対象から思い切って除外することも有効ではないか。そうすることで、ポスターも分かりやすくなると思う。

E 委員：区が独自に就業支援をするのであれば、他の民間サービスやハローワークとの差別化が必要になると思う。例えば、きめ細やかなフォローができるといった差別化などが考えられる。

F 委員：効率性の観点から、委託はよいと思う。ただ、委託で事業を行った場合、中小企業が多いといった葛飾の特徴を踏まえた事業が展開されなくなる恐れもあると考える。

会 長：令和 2 年度の採用決定者数が減少している理由について、教えてほしい。

産業経済課：コロナ禍で、接触の機会が減り、対面での面接が難しかったことが要因で、採用決定者数が減っていると考えている。

会 長：採用決定者数が減っていることについて、委託業者から理由を明確に聞き出し、区で把握することが大事ではないか。また、今後は採用決定者数の目標を設定し、至らなかった場合はその理由を委託業者から説明してもらうことも必要だと思う。

B 委員：事業を評価するうえで、求人獲得数を所管課では重要と考えていたかと思うが、採用決定者数も大事である。今後の方向性となるが、採用決定者数に基づいた単位あたりコストも所管課にて把握するようにすることで、多角的な事業評価を実施してほしいと考える。

会 長：令和元年度から 3 年度にかけて、委託費が増加しているが、この要因は何か。

産業経済課：人件費の増加が主な要因である。

C 委員：人件費の上り幅は正しいのか、他に上がっている要因はないのかといった視点で所管課は委託業者へ確認すべきである。

会 長：委託料は毎年上がっているのだから、採用決定者数も増えるように、委託業者へ働きかける必要がある。

- B 委員：23 区の中でも、一部の自治体のみで実施している事業であり、毎年採用決定者数の実績値が出ていることから、一定の評価はできる事業だと考える。高齢者の就労希望が高いなど、区の実態に合わせた求職者の支援を実施してもらいたい。コストについては、人を相手にする業務なので、下げすぎるのはいかがなものかと考える。
- D 委員：コストに縛られるのではなく、事業内容を充実させるためにコストがかかるのは良いと思う。
- C 委員：委託料の内訳については、所管課にて把握し、チェックをする必要があるのではないかと。また、可能であれば委託業者へ目標値を示し、そこに向けて努力してもらえよう働きかけることも大事だと思う。
- B 委員：今後の方向性としては、各年度の求職登録者数の増加や求人獲得数の増加に努め、雇用・就業のマッチング率の向上を目指してほしいと考える。
- E 委員：若い人へ事業の周知をするのであれば、SNSよりも、校内にポスターを掲示する方が効果的だと思う。チラシの内容も分かりやすくしてほしい。
- B 委員：例えば、大学のキャリアセンターへ説明し、当該事業のサービスを利用してもらうよう働きかけてほしいと考える。そうすることで、大学側も学生へ紹介しやすくなる。チラシについては、配布先を増やす等、幅広く周知するよう工夫してほしい。
- H 委員：チラシについては、建物内だけでなく、外を歩いている時に、目に入るような場所にも設置してほしい。
- 産業経済課：現状では、駅スタンドへのチラシ設置や町会の掲示板にポスターを掲示している。
- C 委員：就業支援アドバイザーの存在が重要になるのではないかと。
- B 委員：求職者のニーズに合わせた求人を紹介できるよう、求人開拓業務を拡大するとともに、就業支援アドバイザー業務を充実させてほしい。

(2) 認知症事業の充実

(意見整理表の内容確認後議論)

- A 委員：認知症のサポート医が少ないことに課題があると思う。困っている人はたくさんいるので、可能な限り医師会と連携して取り組むべきである。区内の脳神経外科医の先生に話を聞いたが、認知症と診断されるためには、かなり精度の高い検査を要求される。なるべく専門医に診断をお願いしたいと考えている。
- 高齢者支援課：医師会とこれまで以上に連携して事業に取り組んでいきたい。

- B 委員：認知症に対して、様々な取組を行っており、認知症高齢者が増加している葛飾区で、一定程度の成果は上げていると思う。また、おでかけあんしん事業の登録者の入力方法が非効率なので、システム改修を行い、効率化を図ることで、本来の支援業務に取り組めるようにしてほしい。また、現状の単位あたりコストでは、コストが多くかかっているのか少ないのかわからない。若年層などの啓発にコストをかけるべきではないかと思う。
- A 委員：認知症の方を介護する家族は本当に大変である。今後、介護者をケアする取組も実施してほしい。
- B 委員：もの忘れ予防健診受診率の向上も重要ではないか。もの忘れ予防フェスタは、新型コロナウイルスの影響により、休止という話だったが、認知症を知る良い機会であったため、別の形でイベントを実施するなど、今後再開の余地を残してほしいと思う。
- F 委員：認知症を知ることが一番大切だと思うので、こうしたイベントは実施してほしい。
- D 委員：一番大変なのは、認知症の方の介護をしている家族である。改めて介護者支援も検討してほしい。
- B 委員：おでかけあんしん事業はとても良い事業だと思うので、利用者を増やせるように、区民により一層周知すべきだと思う。
- 高齢者支援課：今までは、徘徊者を警察が保護した場合、土日や夜間に関わらず、区が連絡を受けて対応していた。このおでかけあんしん事業が導入されたことで、区を介さず、警察とコールセンターで対応できるようになった。
- 会 長：認知症の方の見守りは本当に大切である。町会や民生委員と連携して事業に取り組めると良いと思う。
- C 委員：町会と民生委員は、福祉部と関わりがあるので、是非連携して取り組んでほしい。
- B 委員：医師会との連携も大事なので、医師会とより一層密な連携を取るべきだと思う。
- E 委員：おでかけあんしん事業は私も良い事業だと思うので、利用者が増えるように、普及啓発に取り組んでほしい。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会